



協力：ホビージャパン



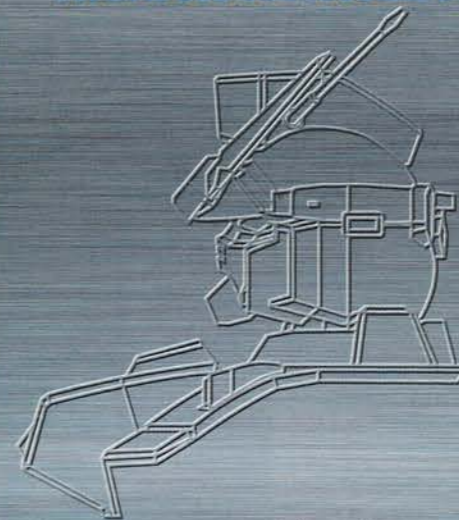
地球連邦軍 多用途 モビルスーツ
ガンダム試作1号機 RX-78 GP01
1/100SCALE
マスターグレードモデル

GUNDAM GP01
U.N.T. SPACY PROTOTYPE MULTIPURPOSE MOBILE SUIT

MOBILE SUIT
RX-78GP01

ZEPHYRANTHES

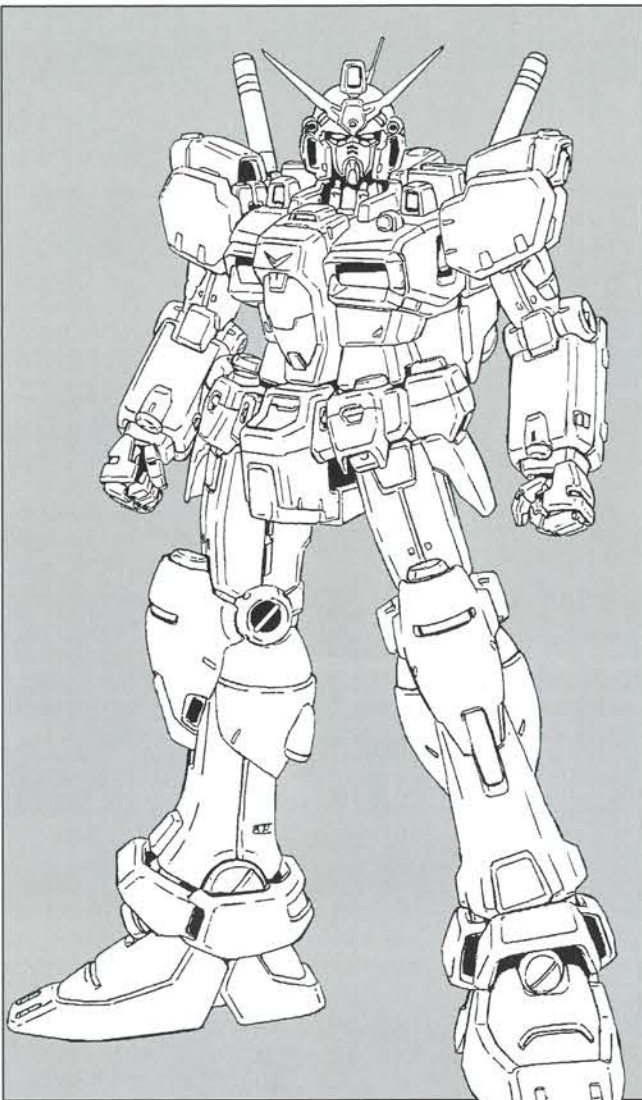
U.N.T. SPACY PROTOTYPE
MULTIPURPOSE MOBILE SUIT



地球連邦軍 多用途 モビルスーツ
ガンダム試作1号機 RX-78 GP01
1/100SCALE
マスターグレードモデル

BANDAI 1997 MADE IN JAPAN





一年戦争終結後、連邦軍首脳部は“MS”という兵器そのものの検証を行っていた。連邦軍による戦後のMS開発は、基本的には公国軍の技術を吸収することから始まったのである。そして、接収した物資や施設から得た情報から、技術格差の是正におおよその目処が立った頃、MSの更なる高性能化を目指してひとつのプロジェクトが立案された。それが「ガンダム開発計画」である。

このプロジェクトは「連邦軍再建計画」の一環として認可を受け、連邦軍のジョン・コーウェン中将管理のもと、U.C.0081年10月20日、アナハイム・エレクトロニクス（以下AE）において極秘裡にスタートした。

AEは、家電製品から軍用航空艦艇まで生産する巨大企業であり、一年戦争当時、その影響力の大きさから公国軍でさえ接収を控えたほどの一大コングロマリットであった。また、戦後はいち早くMSの兵器としての優秀さに着目し、公国の主幹MS生産メーカーであったジオニック社などを吸収合併することで、地球圏最大のMS開発生産能力を持つ軍需産業となったのである。そしてAEは、連邦軍のガンダム開発計画に基づいて数種類の設計案を提出し、検討期間を経て機体建造を開始した。

GP01は、一年戦争時に優秀な戦績を残したRX-78ガンダムのさらなる高性能化を目指し、次期主力MSを開発するためのテストヘッドとして試作された実験用ガンダムタイプの内の“汎用型MS”の重力下仕様機である。

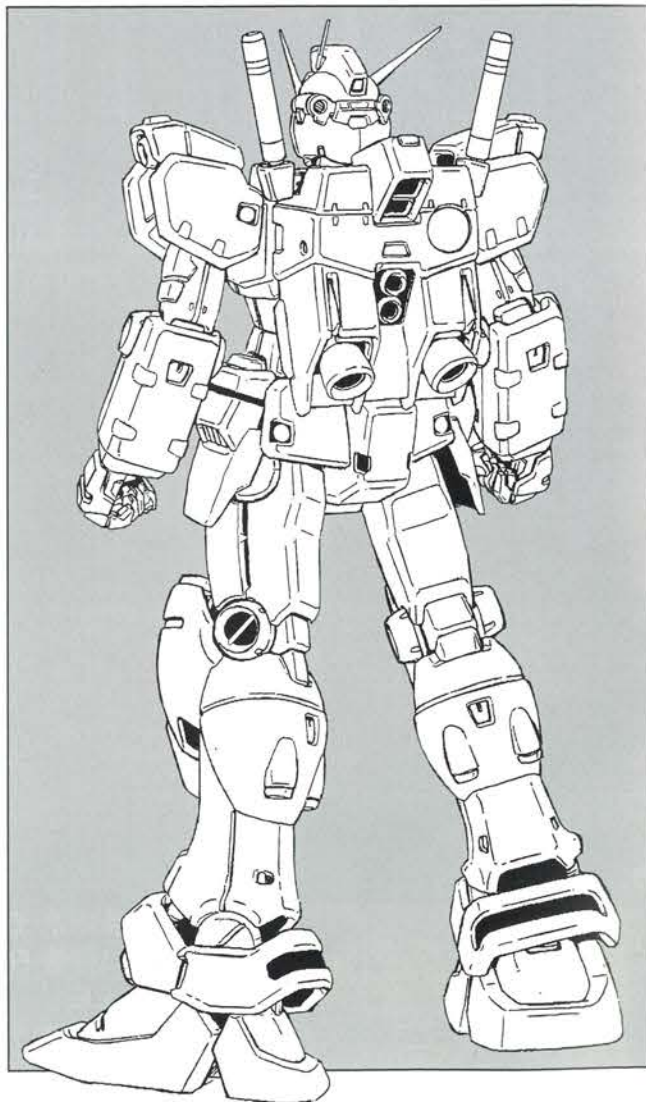
この機体は実験機であるため、センサー類などが増設されており、

RX-78に搭載されていたバランサーやセンサーはさらにブラッシュアップあるいは設計変更され、むき出しで仮設されている部分もある。また、汎用型兵器としての思想をさらに追及した結果、より人間に近い運動、可動が可能ないように設計されている（この設計思想は、後にムーバブル・フレームへと昇華される）。

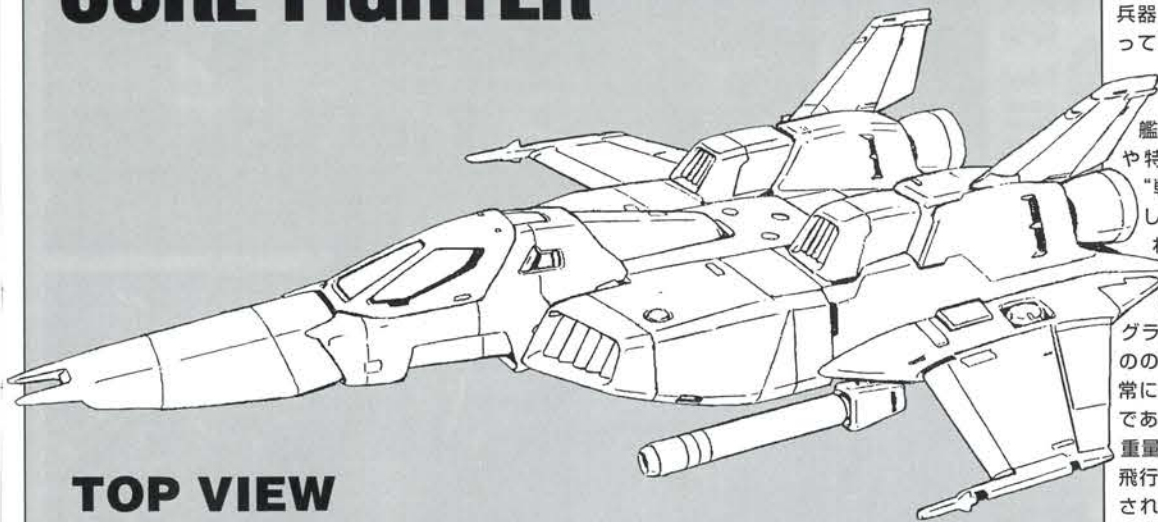
さらに、パイロット及び戦闘データなどのサバイバリティを確保するため、コア・ブロックシステムを引き続き採用している他、RX-78において問題となっていた腹部の構造的な脆弱さを補うため、従来のパーティカル（垂直）・イン・ザ・ボディ方式ではなく、水平（水平）・イン・ザ・ボディ方式が試験的に採用されている。コクピットブロックの移動方式などはRX-78とほぼ同一だが、コア・ブロックとしての機能自体が見直され、変形やボディ内のレイアウトが変更されている。

この機体は、メイン・ジェネレータ及びメイン・スラスタ、各種の操縦、管制機器のほとんどがコアファイターに搭載されているため、主機であるコアファイターを換装するだけで、空間戦闘から重力下まで適応可能となるよう配慮されている。無論、機体の各種アライメント調整やメンテナンスなどは必要で、諸領域に特化された専用機にはかなわないが、空間用装備も同時期に開発されているため、追加装備による対応が可能である。

RX-78 GP01 ZEPHYRANTHES



CORE FIGHTER

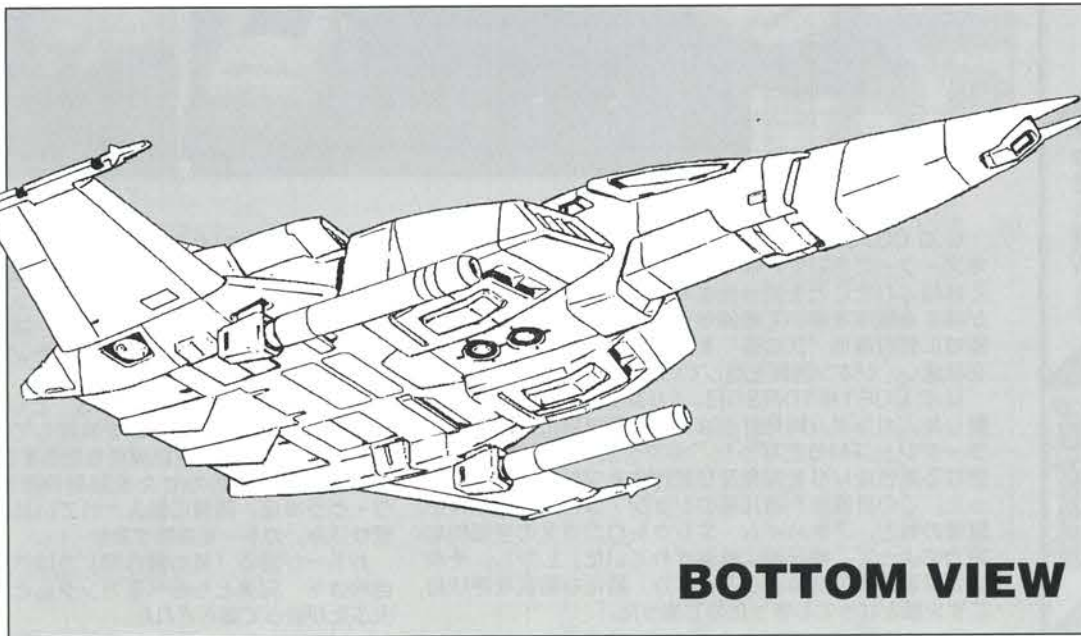


TOP VIEW

RX-78ガンダムの脱出用コアブロックとして採用されたFF-X7コアファイターは、多用途戦闘機としての側面も持っていた。その変形システムプランは、宇宙空間戦闘機FF-S3“セイバーフィッシュ”、高々度格闘戦闘機FF-6“TINコード”などを開発したハービック社の提案によって決定した。このプランはSTOL方式の艦載機の離着陸のノウハウからヒントを得たもので、MSへの換装は艦内を基本として行い、空中での換装には、姿勢制御に各種スラスタを使用するというものだった。

ただし、戦闘中の空中換装はきわめて危険度が高く、汎用性を広く求めた総合プランは多少のテイクダウンを経て進行した。また、エンジンブロックに胴体をはさみこむようなスライド式プラットフォーム方式も提案されたが、飛行中の変形による失速も問題となり、机上のプランに終わった（ちなみにハービック社は、一年戦争終結後、戦闘の主役が高々度戦闘機からMSに移行したことにより、連邦軍からの新規発注が激減したため経営難に陥り、U.C.0082年6月にAEに吸収合併されてしまう。AEの航空機部門の開発スタッフが、GP01のコアブロックシステムの設計にも貢献したことはいうまでもない）。

GP01に採用されたFF-XIIコアファイターは、基本的に空中換装を想定しないことが確認され、ドラムモジュールとして機体から独立したコクピットブロックが90度ロールした状態ではさみこまれるスライド式のプラットフォームが採用された。また、換装作業中、Bパーツ（下半身ブロック）は固定されていることが運用条件とされた。重力下における空中換装は、A、Bパーツを搬送する専用の輸送機が必要であり、MSそのものの開発においては不要であると判断されたのである。



BOTTOM VIEW

RX-78ガンダムを開発した「V作戦」は、“未知の可能性を持つ新兵器MS”の運用によって想定される“あらゆる状況”に対応する必要から、母艦となる強襲揚陸艦や特殊輸送機などが“戦術システム”として並行して開発されたのである。“空中換装”自体、可能性としてプログラムはしてあったものの、手段としては非常にナンセンスなものであり、せいぜいが無重量空間における慣性飛行状態で行うものとされていた程度だったのだ。

実際、戦後のシミュレーション結果からも、

実際、戦後のシミュレーション結果からも、実戦において空中換装を行うことは正規の戦術としてリスクが大きすぎることが判明したため、GP01のコアファイターは、A、Bパーツの空中換装を想定しない機体となった。そのため、航空機形態時の飛行ベクトルとMS形態時の機動軸を一致させる必要がなくなり、機体レイアウトが大幅に変更されたのである。

キャノピーは機体のコクピットハッチの真下に位置するため、RX-78に比べ、耐弾性も倍加しており、インテイクとメインジェネレータブロックは胸部に収納され、エンジンブロックが背面に露出することで、全長が延長されたために機体構造に十分な機能と装備を盛り込むことが可能となった。そのため、メインエンジンはMS形態時のメインスラスタとして流用できるほどの出力を獲得できた。逆に言えば、コアファイターは、MS一機を機動可能な出力を持つ航空機でもあるのだ。

かくして、旧ハービック社の技術力が存分に投入されたGP01用のコアファイターは、脱出専用のユニットとしては破格の航空戦闘能力を持ち、主ユニットを換装することにより、宇宙空間戦闘機としても充分に運用できるという驚異的な戦闘機となったのである。



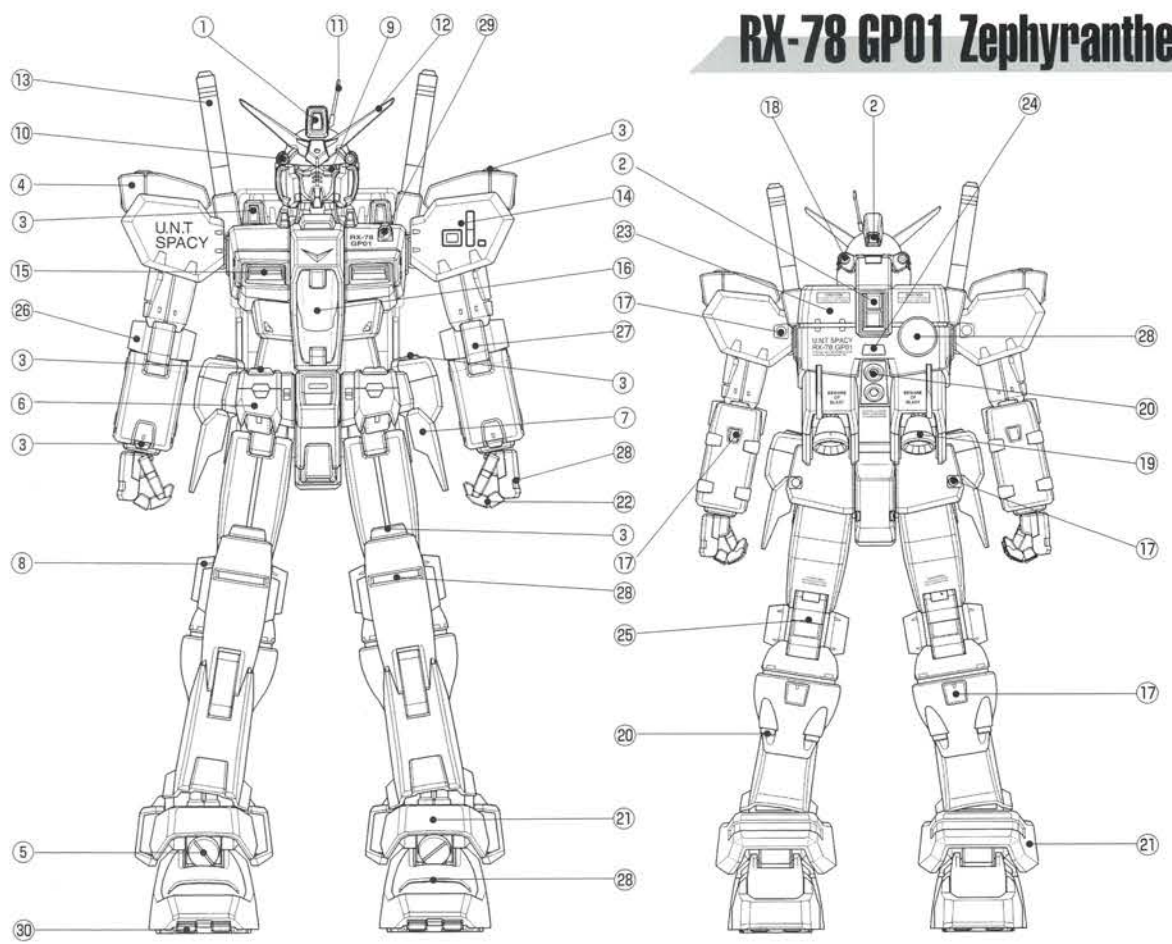
宇宙世紀
U.C.0079年12月31日。一年戦争終結直前、ア・バオア・クーにおいて、信奉するギレンがキシリアによって謀殺されたことを知ったエギーユ・デラーズは、自ら擁する艦隊を率いて戦線から離脱した。そして、暗礁宙域に繋留基地「茨の園」を設営。デラーズ・フリートを結成し、ジオン再興を期していた。

U.C.0081年10月20日。「ガンダム開発計画」が開始した。ガンダム開発計画は、一年戦争時に連邦軍の旗艦MSとなった「ガンダム」を指標として、更なる高性能MSを開発及び試作するプロジェクトであった。この計画は、連邦軍のジョン・コウエン中將の管理のもと、アナハイム・エレクトロニクスとの全面的な協力によって、極秘裡に推進されていた。しかし、それは公国軍残党の知るところとなり、新たな戦乱を呼び起こす火種となってしまったのであった。

U.C.0083年10月13日。ガンダム開発計画を察知したデラーズ・フリートは「星の屑作戦」を決行した。かつて「ソロモンの悪夢」と異名をとった公国軍屈指のエースパイロット、アナベル・ガトーは、重力下試験のためオーストラリアの連邦軍トリントン基地に搬入されたばかりのガンダムGP02Aを強奪し、トリントン基地を襲撃。「最強の攻撃力を持つMS」として開発されていたGP02Aは、強力な核弾頭を実装しており、公国軍残党の手に渡れば恐るべき結果をもたらすことは明白だった。偶然その場に居合わせた連邦軍の新米パイロット、コウ・ウラキは、同時に搬入されていたガンダムGP01に乗り込み、ガトーを追撃するが……。

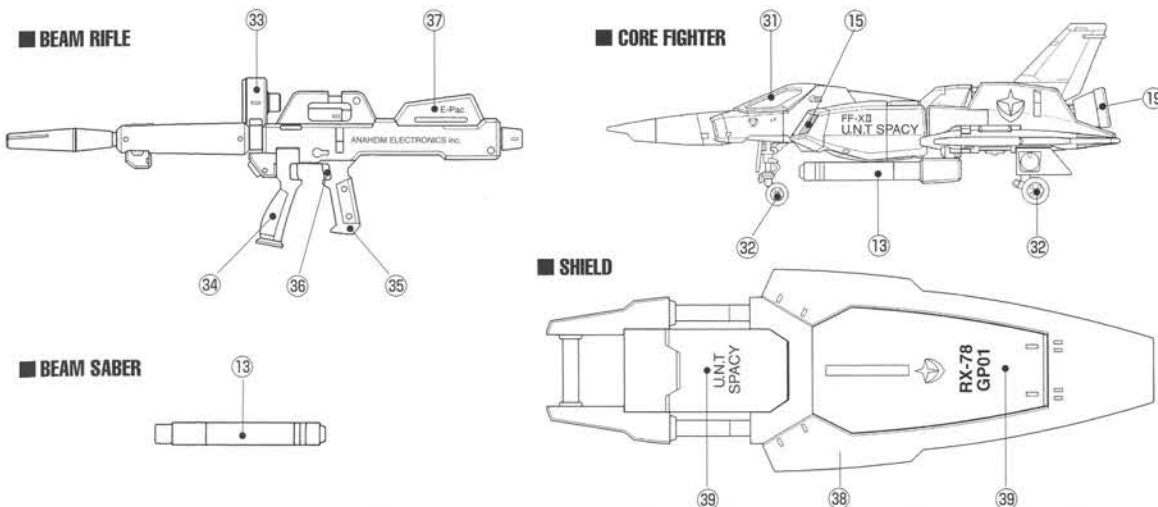
ガトーが語る「星の屑作戦」とは？ 機体強奪の真の目的は？ 兄弟とも呼べるガンダムとガンダムの戦いの火ぶたが切って落とされた。

RX-78 GP01 Zephyranthes



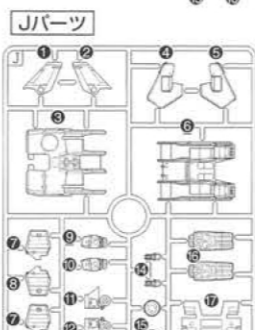
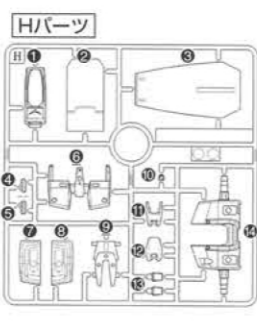
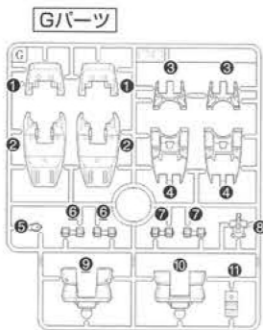
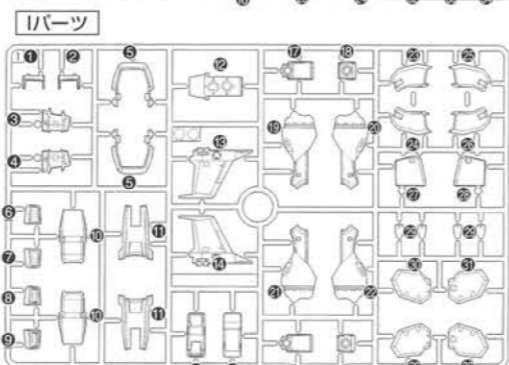
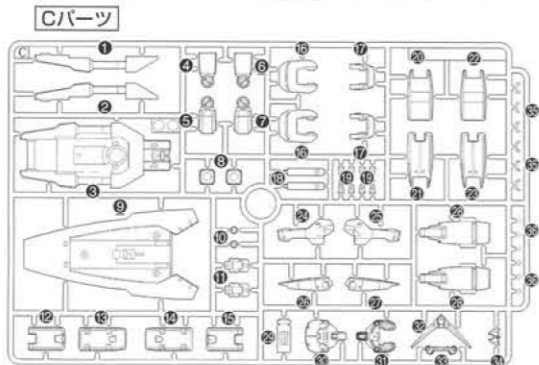
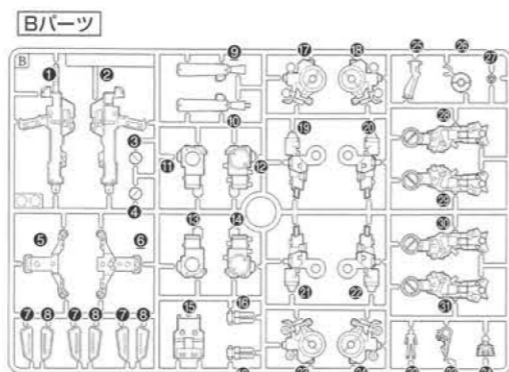
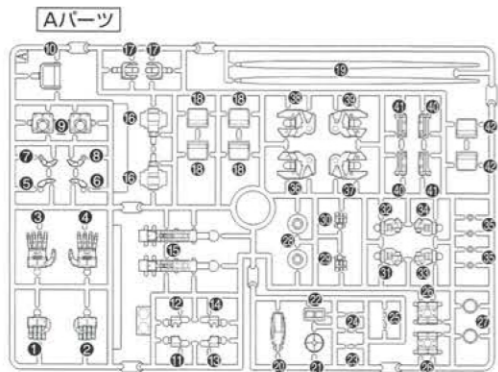
- | | | | | |
|-------------------|-------------------|----------------|-----------------|-------------|
| ① メインカメラ | ⑨ デュアルセンサー | ⑬ マウントラッチ | ⑲ ニーフレームジョイント | ⑳ サイトスコープ |
| ② リアカメラ/センサー | ⑩ 60mmバルカン | ⑭ ダクト | ㉑ エルボージョイントアーマー | ㉒ フォアグリッブ |
| ③ サブセンサー | ⑪ モニタリング用ブレードアンテナ | ⑮ メインスラスタ | ㉓ エルボーフレームユニット | ㉔ グリッブ |
| ④ ショルダーバーニアユニット | ⑫ マルチブレードアンテナ | ⑯ サブスラスタ | ㉕ ナロウレンジセンサー | ㉖ トリガー |
| ⑤ サブスタスコントロールユニット | ⑬ ビームサーベル/ビームガン | ⑰ アンクルサポートユニット | ㉗ サイトユニット | ㉘ エネルギーバック |
| ⑥ サブドライブシステム | ⑭ ショルダーアーマー | ⑱ マニピュレーター | ㉙ スパイク | ㉚ シールド |
| ⑦ サイドアーマー | ⑮ エアインテイク | ㉒ コアブロックカバー | ㉓ キャノピー | ㉔ アンチビーム |
| ⑧ ニージョイントアーマー | ⑯ コクピットハッチ | ㉓ メンテナンスハッチ | ㉔ ランディングギア | ㉕ コーティングエリア |

注) この機体は、U.C.0083年10月に、オーストラリアの連邦軍トリントン基地に搬入された時の納品状態のもので、後に実戦によって損壊したため、空間戦闘仕様のFb型に改装されました。

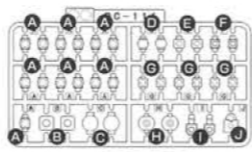


パーツリスト

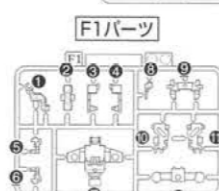
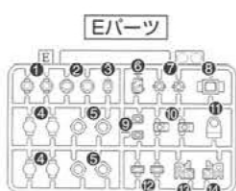
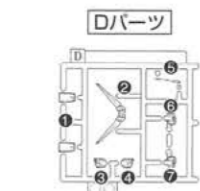
[使用材質] <成形品>(スチロール樹脂: PS)、(ポリエチレン: PE)、(ABS樹脂: ABS)、<ポリキャップ>(ポリエチレン: PE)



*P.C.A 11個、P.C.D 1個
P.C.G 1個は予備です。
P.C.F・①は使いません。



マーキングシール... 1枚
ガンダムデカール... 1枚
カラーシール... 1枚



注意

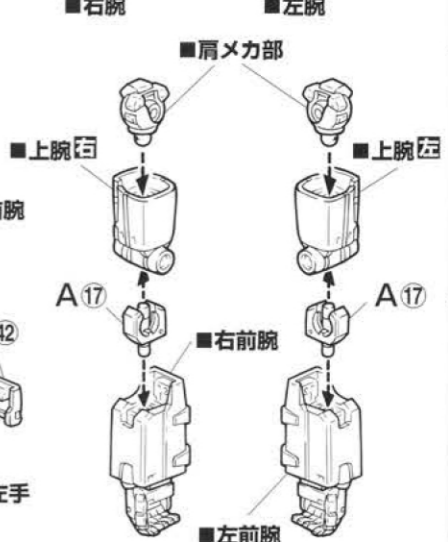
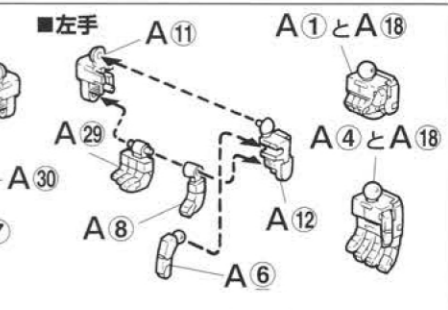
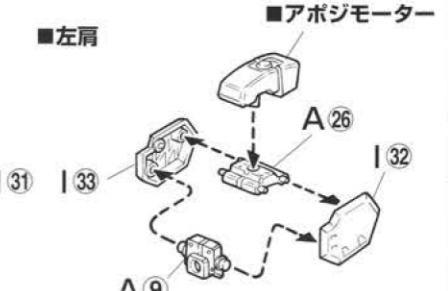
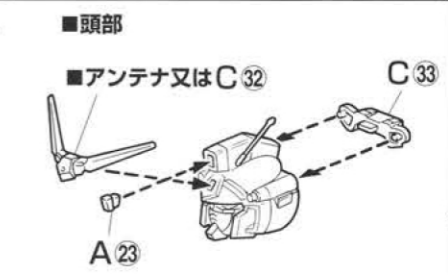
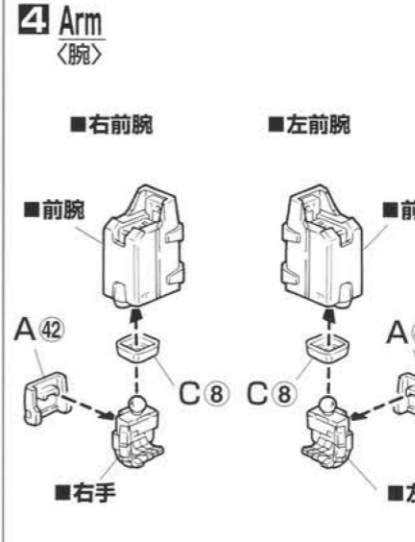
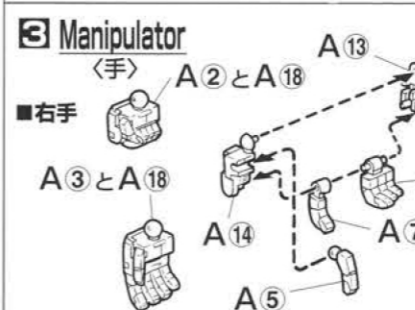
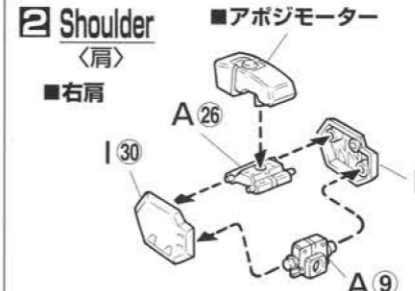
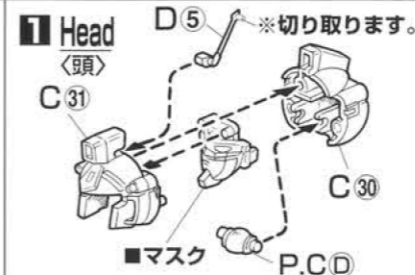
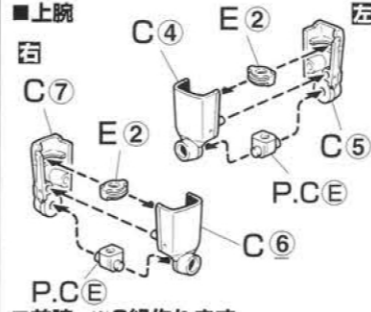
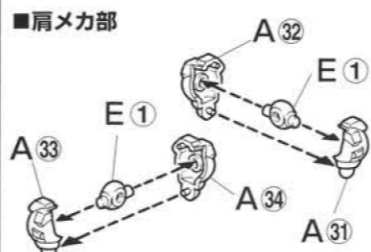
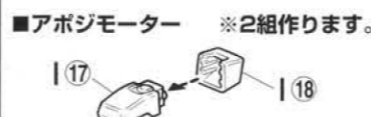
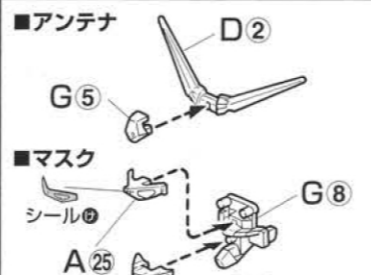
お買い上げのお客様へ 必ずお読みください。

- 本商品の対象年齢は15才以上です。対象年齢未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 小さな部品がありますので、小さなお子様が誤って飲み込まないように注意してください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 尖った部分や鋭い部分がありますので、取り扱いや保管場所に注意してください。思わぬケガをする恐れがあります。
- 接着剤は、閉め切った室内では使用しないでください。中毒になる危険があります。

〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 塗装には、より安全な水性塗料のご使用をおすすめします。
- 尖った先端や薄い縁端部に触れながらの組み立てには十分ご注意ください。
- ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

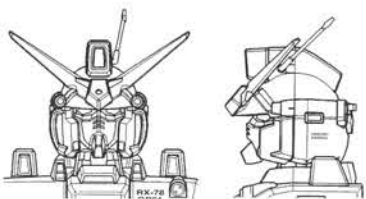
このキットには、接着剤が入っておりません。プラスチックモデル専用接着剤を別にお買い求めください。



HEAD PARTS

HU-0078GP01 Serial1008327

GP01に搭載されるデュアルカメラは、RX-78のものにさらにブラッシュアップした光学端末で、視差による計測が可能なモードも持っている。さらに、バルカンの射程や精度も格段に向上している。



RX-78GP01の頭部は、RX-78と同様に頭頂部のメインカメラ部と一対のデュアルカメラ、そして2門の60mmバルカンなどが内装されている。この外観はガンダム系MSの特徴ともなっているが、試験機であるGP01にはさらにモニタリング用の装備が多数増設されている。

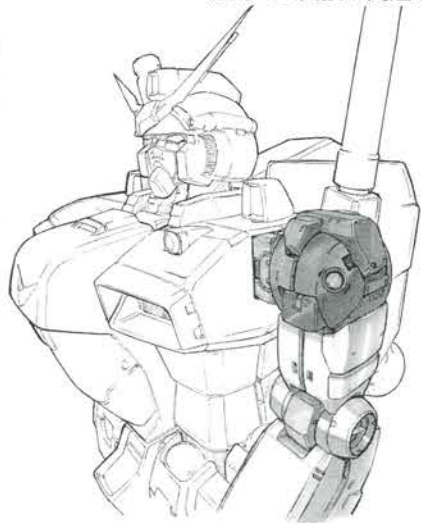
GP01のメインコンピュータも、基本的にはコアファイターに搭載されているが、頭部ユニットを副次的なコ・プロセッサフレームとするシステムも継承されている。ただし、これはコアファイターに搭載されるコンピュータの負担やコストを減らすことを可能とする一方で、機体各所に分散配置された各種センサーを統合制御する機能を機体自体に盛り込むことで、MSのさらなる“擬人化”を達成するというコンセプトのためであるらしい。



JOINT UNIT

肩関節部構造

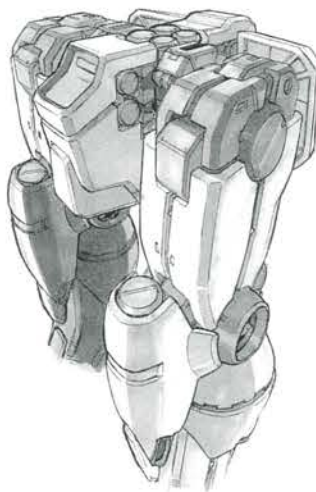
GP01の肩部構造は、その可動部品やアクチュエータのほとんどを腕部に集中して収納している。これは、コアブロックを内装する必要から生じた構造ではあるが、逆に、関節構造自体の画期的な改善を可能とした。つまり、可動部品の体積あたりのトルクを向上させ、アクチュエータ自体の小型化も実現させた。



MSのジョイント構造は、一年戦争後、連邦と公国の技術融合がもっとも積極的に図られた部位である。稼働レスポンスや耐荷重の改善は、常にMSの性能向上と密接に関連していたのである。

股関節部構造

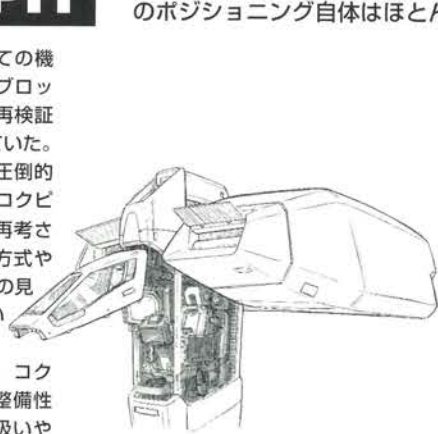
GP01の股関節も、肩関節と同様に新設計の高トルクアクチュエータが脚部に集中して内装されている。そのため、構造が複雑で頻繁なメンテナンスが必要だった股関節自体の設計が変更された。その検証のため、構造検査やメンテナンスが容易なように、GP01は関節部分の構造が露出している部位が多いのである。



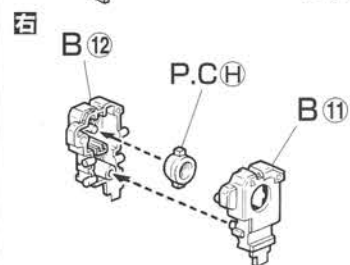
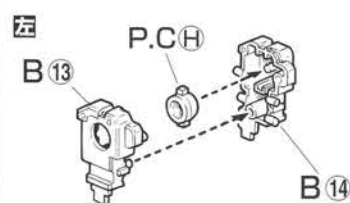
COCK PIT

RX-78とは、コアブロックの収納方式が異なるGP01だが、コックピットブロックのポジショニング自体はほとんど変化していない。

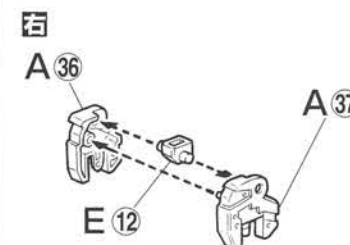
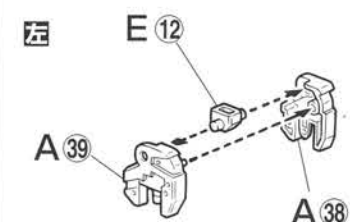
GP01は、MSとしての機能向上とともに、コアブロックシステムの有効性を再検証するという目的も持っていた。戦闘機としての性能が圧倒的に向上したFF-XIIは、コックピット周りの構造なども再考され、キャノピーの開閉方式やA、Bパーツとの接合面の見直しなどが図られている。これによってGP01は、コックピット周りの耐弾性や整備性が向上しており、一層扱いやすい機体となっている。



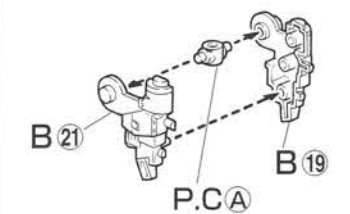
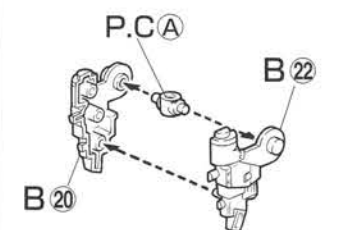
■モモ・メカ部



■ヒザ関節

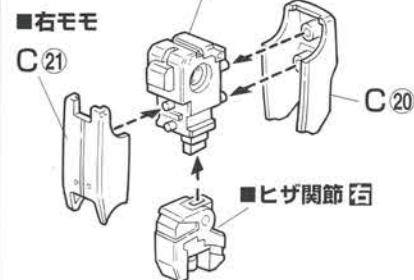


■ヒザ・メカ部

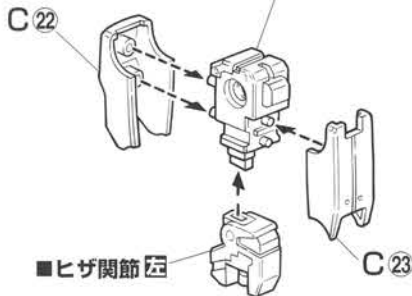


Leg (スネ)

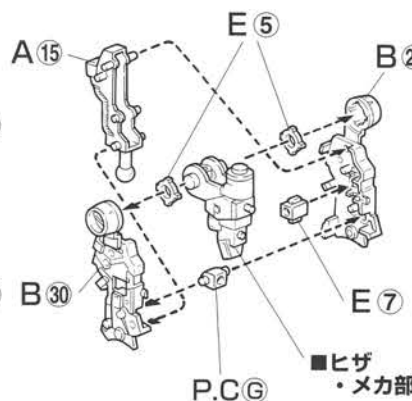
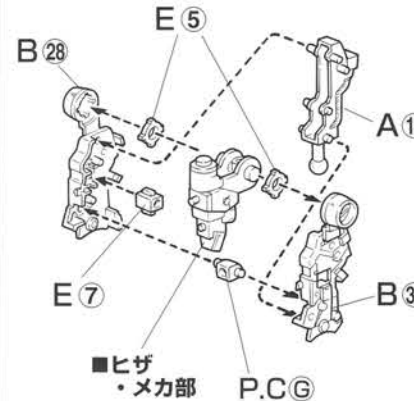
■モモ・メカ部



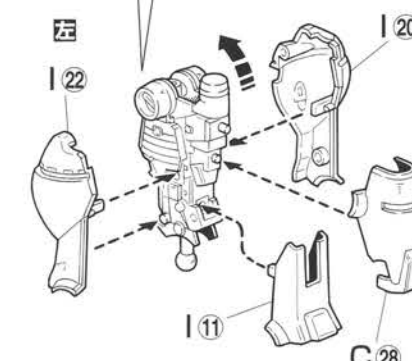
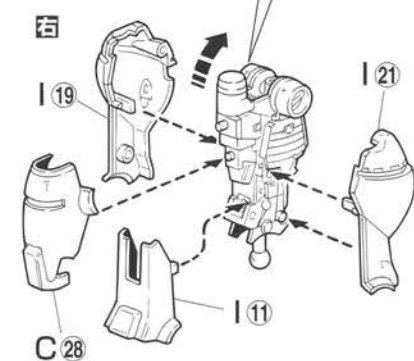
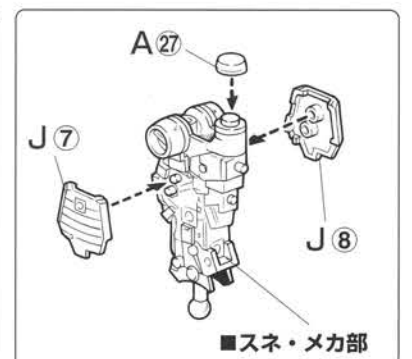
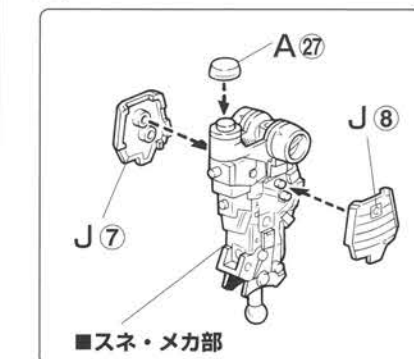
■左モモ



■スネ・メカ部



■スネ



AFTER ONE YEAR WAR

1年戦争に於けるRX-78ガンダムの戦果は、連邦軍の期待値をはるかに上回るものであった。旧ジオンのMS生産メーカーの吸収、技術者の獲得により、軍需産業界に於いて他社の追随を許さぬ地位を築く、アナハイム・エレクトロニクス社は連邦軍より極秘裡に次期主力MSの発注を受け、試作機の開発に着手した。RX-78の高性能化案のひとつとして採択された機体がGP01であった。

STEAL

「ガンダム開発計画」のもと、約2年の期間にAE社は実用試験の可能な2機の試作機を作り上げた。ゼフィランサス、サイサリスと称される2機のガンダムは、重力下試験の為に地球に降ろされ、AE技術者とともにオーストラリアの連邦軍トリントン基地へ移送された。極秘裡に行われた一連のMS開発計画を知る公国軍残党は、己の大義をかがめ、同基地を強襲、試作2号機を奪取することに成功した。



CORE FIGHTER

RX-78に搭載されたコアファイターがあくまでも脱出ポッドの延長線上に位置付けられるのに対し、GP01のコアファイターは当初より1個の戦闘機としての運用を前提に開発がスタートした。FF-XⅡの優秀性は単に戦闘機としての性能だけではなく、ビームガン、メインエンジンブロックがMS換装時に於いて有効に活用できるという面からもうかがい知ることができる。惜むべきは、公国軍残党との交戦にかかわる諸事情により、同機を含む「ガンダム開発計画」が記録から抹消され、幻の機体となってしまった事であろう。

CORE FIGHTER



RX-78とは、コアブロックの収納方式が異なるGP01だが、コクピットブロックのポジショニング自体はほとんど変化していない。GP01は、MSとしての機能向上とともに、コアブロックシステムの有効性を再検証するという目的も持っていた。

GP01のコアファイターは、RX-78のものとは設計コンセプトが大きく異なっており、単なる脱出用のコクピットとしてばかりでなく、戦闘機としても非常に優秀な機体となっている。



DETAIL UP

1/100ガンダムGP01をさらにリアルに仕上げたい方は、18ページを参考にして、ディテールアップパーツ接着してください。

ディテールアップ用のパーツを接着する場合には、接着剤の付けすぎに注意してください。

PAINTING

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。

※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

	本体胸部部分などの塗装色。 コバルトブルー(60%)+インディブルー(40%)
	本体胴部分などの塗装色。 モンザレド
	本体インテークや腰部分などの塗装色。 黄橙色(80%)+白(20%)
	関節部分やビームライフルなどの塗装色。 フィールドグレー(1)(50%)+軍艦色(2)(50%)
	メカニック部分などの塗装色。 黒鉄色
	腕部分や脚などの塗装色。 ホワイト

REAR VIEW



FRONT VIEW



◀メインエンジンブロックは背部に露出してパーニアブロックとして機能する。
▶コクピット周りの耐弾性や整備性が向上し、一層扱いやすい機体となっている。



◀コクピット周りの構造なども再考され、キャノピーの開閉方式やA、Bパーツとの接合面の見直しなどが図られている。

MARKING

機体各部をリアルに再現するマーキングシールをセット。塗装する方には、形式番号等のマーキングを要望の高いガンダムデカールで再現しました。



■足首・メカ部

■カカト

※各2組作ります。

■サブセンサー

※2組作ります。

■コクピットカバーフレーム

H11(先にはめ込みます)

6 Ankle
<足首>

■右足首

■左足首

■足首・メカ部

■カカト

■ツマ先

7 Foot
<脚>

■右脚

■左脚

■スネ面

■スネ底

■右足首

■左足首

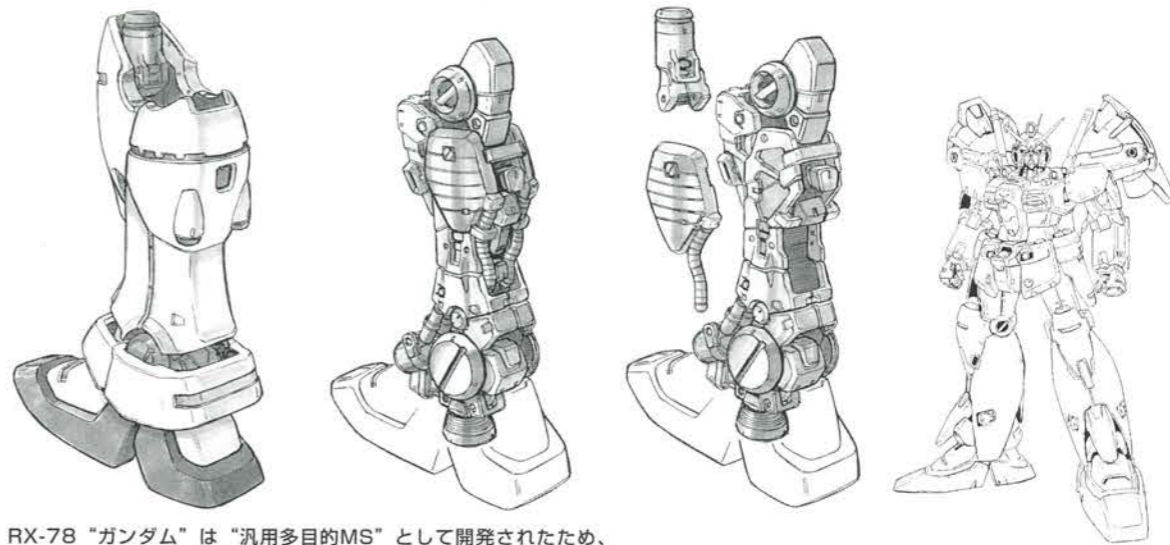
8 Body
<ボディ>

■サブセンサー

■コクピットカバーフレーム

LEG FRAME

GP01は、多用途MSとして設計されたため、重力下仕様の装備の他、空間戦闘仕様の装備も同時に開発されていた。これらの装備は、ほぼ完全に互換性が確保されていたが、実際に装備された時点で、機体の損傷が甚大だったため、多少の設計変更を伴って実装されたという。



GP01-Fb

RX-78 “ガンダム” は“汎用多目的MS”として開発されたため、RX計画によって提出された案件のほとんどすべてを盛り込んだ機体群のひとつ（ガンキャノン、ガンタンク、ホワイトベースなどを含む戦略ユニット）として設計されていた。単純に言えば、いわゆる、“万能性”のMSだったのである。

それに対してGP01は、一年戦争における多様なMSの実働データをもとに、MSの“万能性”という概念の再検討を行った結果得られた“汎用多用途”性を主眼に置いて設計されている。

多目的と多用途の違いは、当初からあらゆる機能をひとつの機体に盛り込むことはせず、オプションによって機体の機能を特化させ、万能に近い多目的性を獲得するという考え方である。GPシリーズを試作する「ガンダム開発計画」が認可された時点で、これらの機体の基準コンセプトはほぼ決定していた。

GP01は、あくまでも稼働領域に対応した高性能化を目指しており、いわゆる“汎用人型兵器”としての機能の追求のみを目的としていた。

MSが稼働する領域は、基本的に地上と宇宙空間のふたつしかない。そして、それぞれの領域で最高の性能を発揮できるように調整されたのが、GP01なのである。

そのため、GP01には空間戦闘用の仕様も存在しており、コアファイターのエンジンユニットや脚部のオプション装着、および、いくつかのユニット換装で仕様変更が可能であった。そのバージョンは、GP01Fb（フルバーニアン）と称している。

ちなみに、MSの大気圏突入は、一年戦争時においても数例しかなく、そのほとんどは失敗していた。しかも、それらはあくまでも事故による落下や着陸であり、実際には、HLVやバリュート装備などで解決できる問題だった。

WEAPONS

A.E.Blash・XBR-L-83d/Du.02
RX・VSh-023F/S-04712
BAUVA・XBR-M-82-05H

GP01の持つビームライフルは、一年戦争時からビーム兵器の開発に携わっていたブラッシュ社（現：AEブラッシュ社）のもので、その威力と精度には定評がある。この時点では共通の規格品とはなっていないが、このビームライフルは、エネルギーバック方式を採用したものであり、出力は1.5MWである。最大の特徴は「ジュッテ」と呼ばれる小型のビームサーベルを装備したことにより、ライフル装備状態のまま、敵の近接兵器を緊急防御可能となったことである。

BEAM RIFLE



SHIELD



GP01に装備されるビームサーベルは、コアファイターに装備されている状態でビームガンとしても使用できるが、その威力は威嚇や攪乱以外には実効性がなく、実戦においてはほとんど使い物にならないとされている。メーカーのAEポウワ社では改良型を開発中だという。

BEAM SABER/ BEAM GUN



GP01のシールドは、塗装面にアンチビームコーティングが施されており、2〜3度ならビーム砲の直撃も防御することができるという。また、携行や移送などの場合の配慮として、全長を短縮できるよう設計されており、未使用時の慣性モーメントを軽減できるらしい。

■本体・下部

■パーニア
※2組作ります。

■胸・上部

■ジョイント用ハッチ

■ビームサーベル
※2組作ります。

■コクピット

■コクピット

■ビームサーベル

■最終組み立て

Core Fighter (コアファイター)

■本体・下部

■本体

■胸・上部

■コクピット

■ビームサーベル

CORE FIGHTER

A.E./Herbic FF-XII Serial005

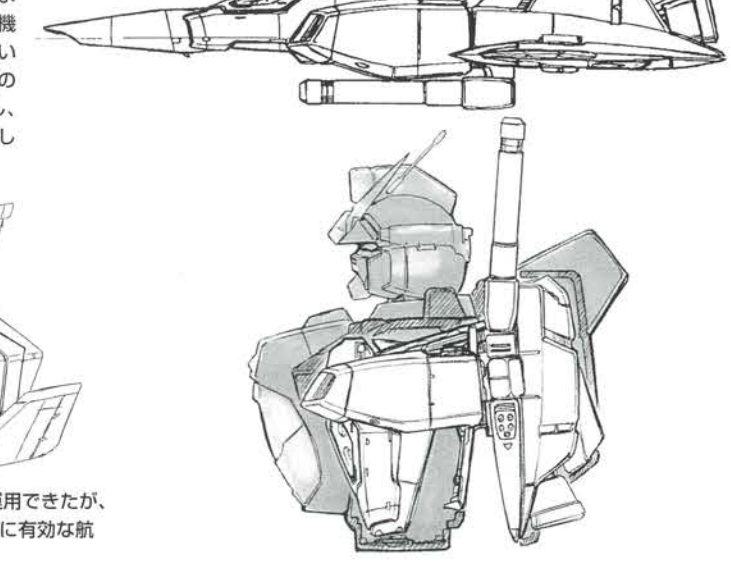
FF-XIIは、基本的にはGP01用のコアブロックシステムとして開発された戦闘機だが、その一方で、一年戦争によって消耗した連邦軍の航空戦闘能力のため、純粋な戦闘機として連邦軍の航空基地に配備する計画案もあったという。実際、トリントン基地においては、GP01用の予備の機体が航空機として試験運用される予定であった。ただし、この計画そのものは、GPシリーズの秘匿によって頓挫してしまっ



RX-78に採用されていたFF-X7は、軽戦闘機としても運用できたが、Gパーツやコアブスターなどを採用しなければ、実際に有効な航空戦力としては期待できなかった。

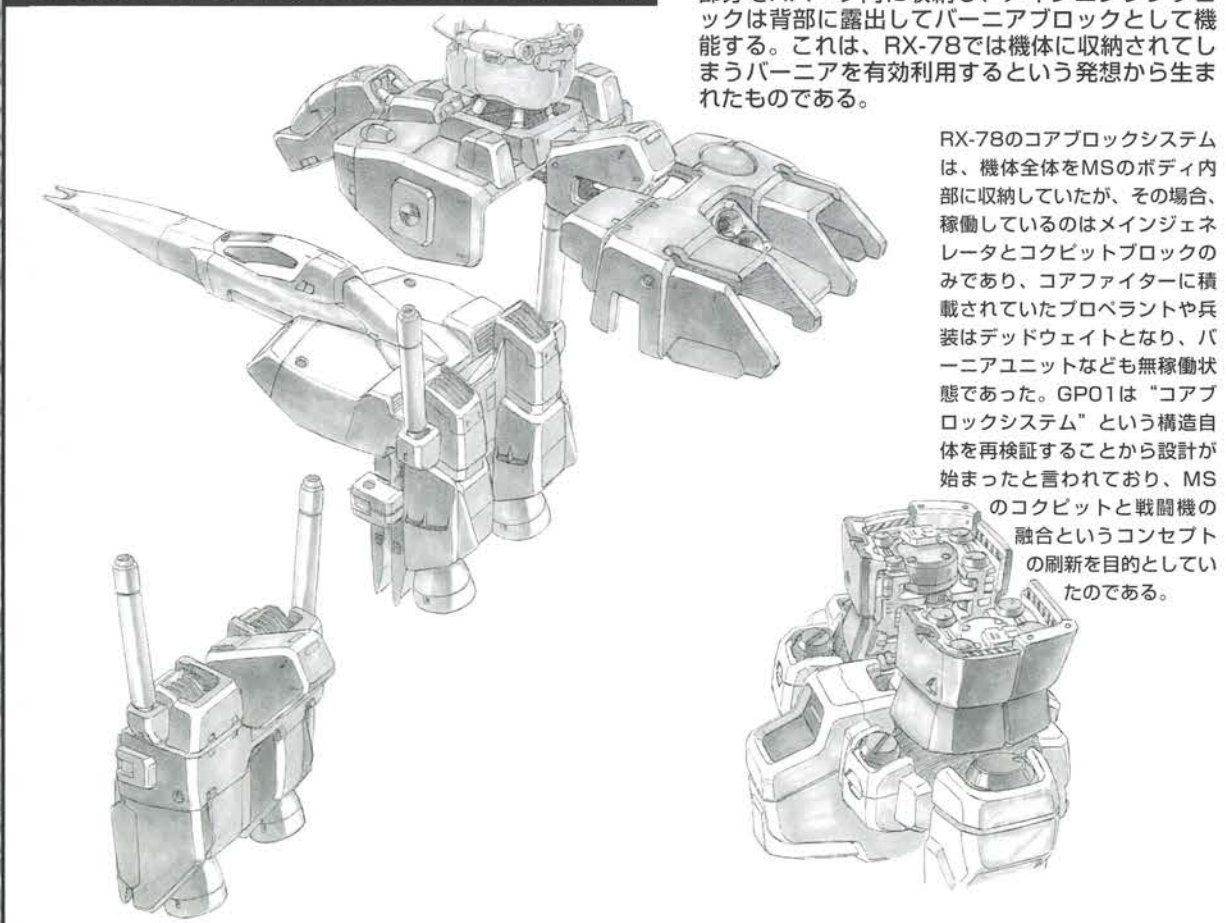
GP01のコアファイターは、RX-78のものとは設計コンセプトが大きく異なっており、単なる脱出用のコクピットとしてばかりでなく、戦闘機としても非常に優秀な機体となっている。

RX-78 GP01用 コアファイター

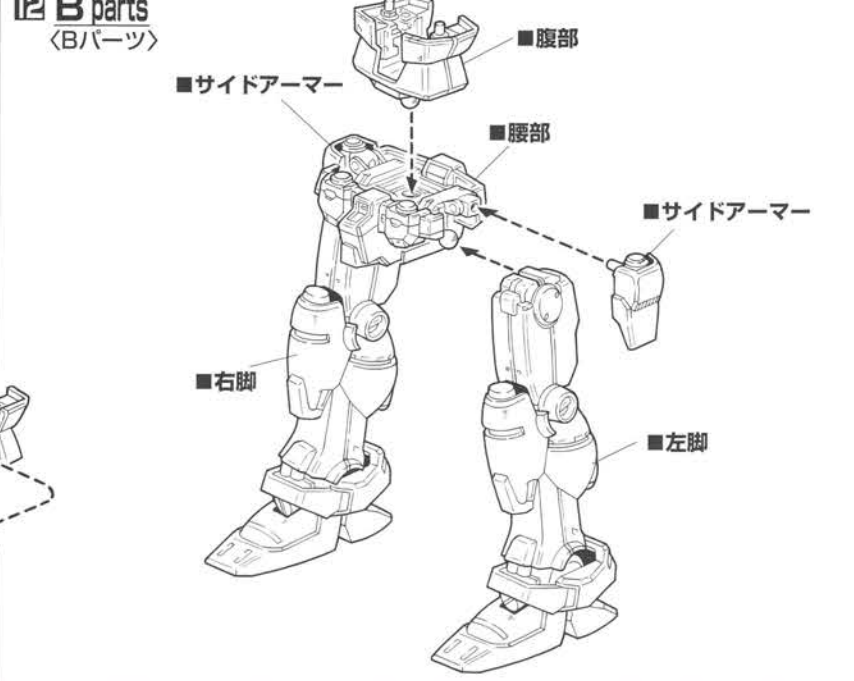
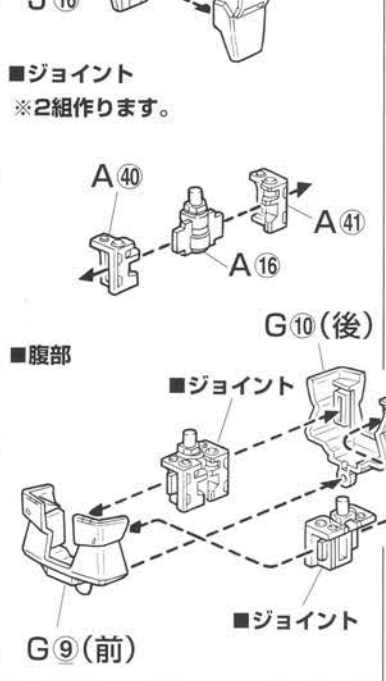
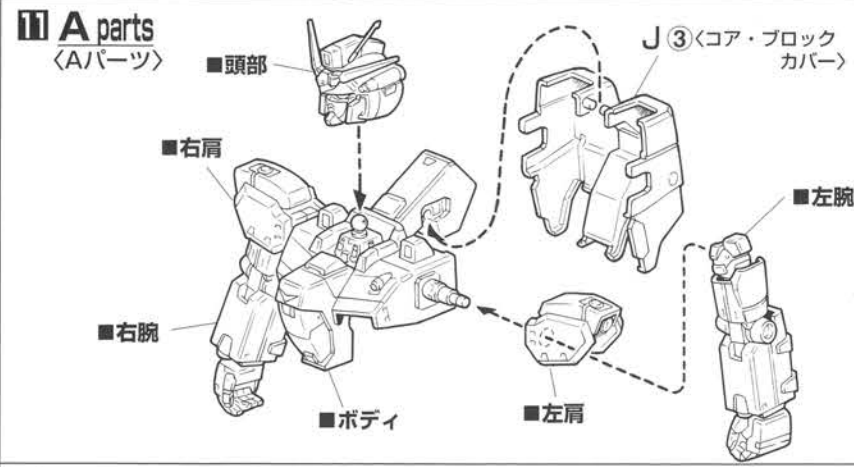
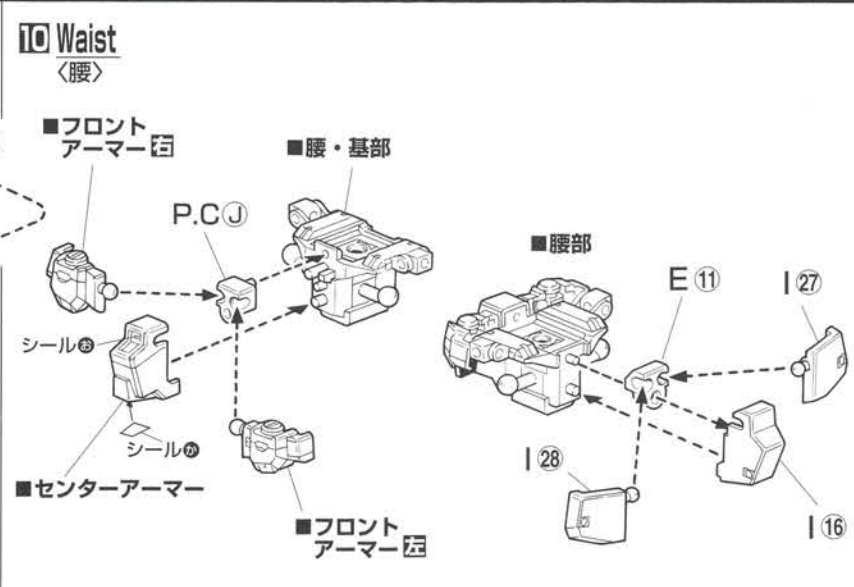
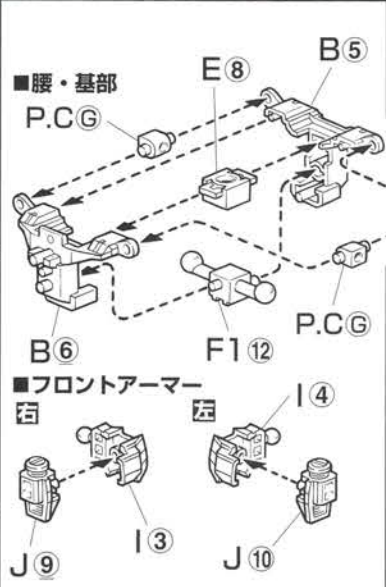


CORE BLOCK SYSTEM

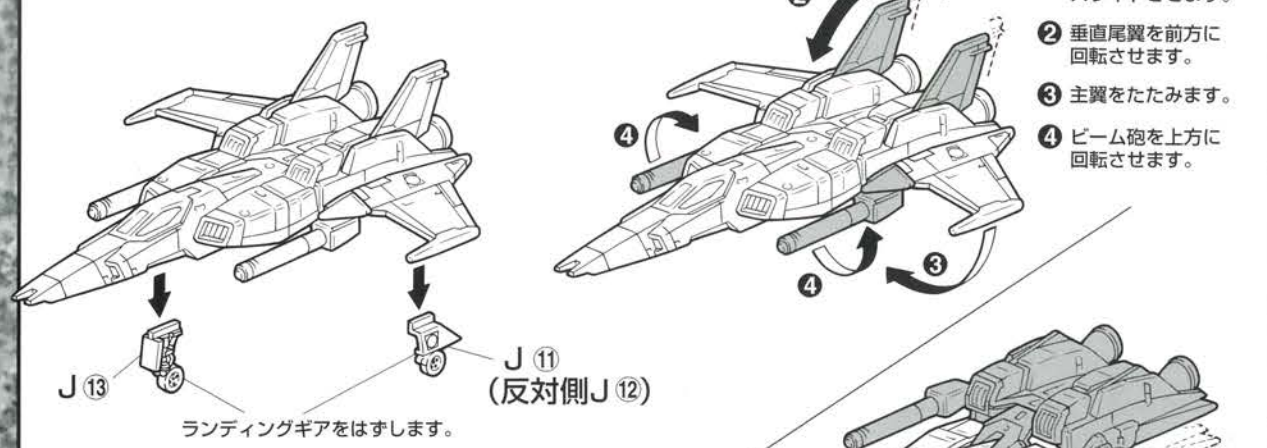
GP01のコアブロックシステムは、機体の前半部分をAパーツ内に収納し、メインエンジンブロックは背部に露出してパーニアブロックとして機能する。これは、RX-78では機体に収納されてしまうパーニアを有効利用するという発想から生まれたものである。



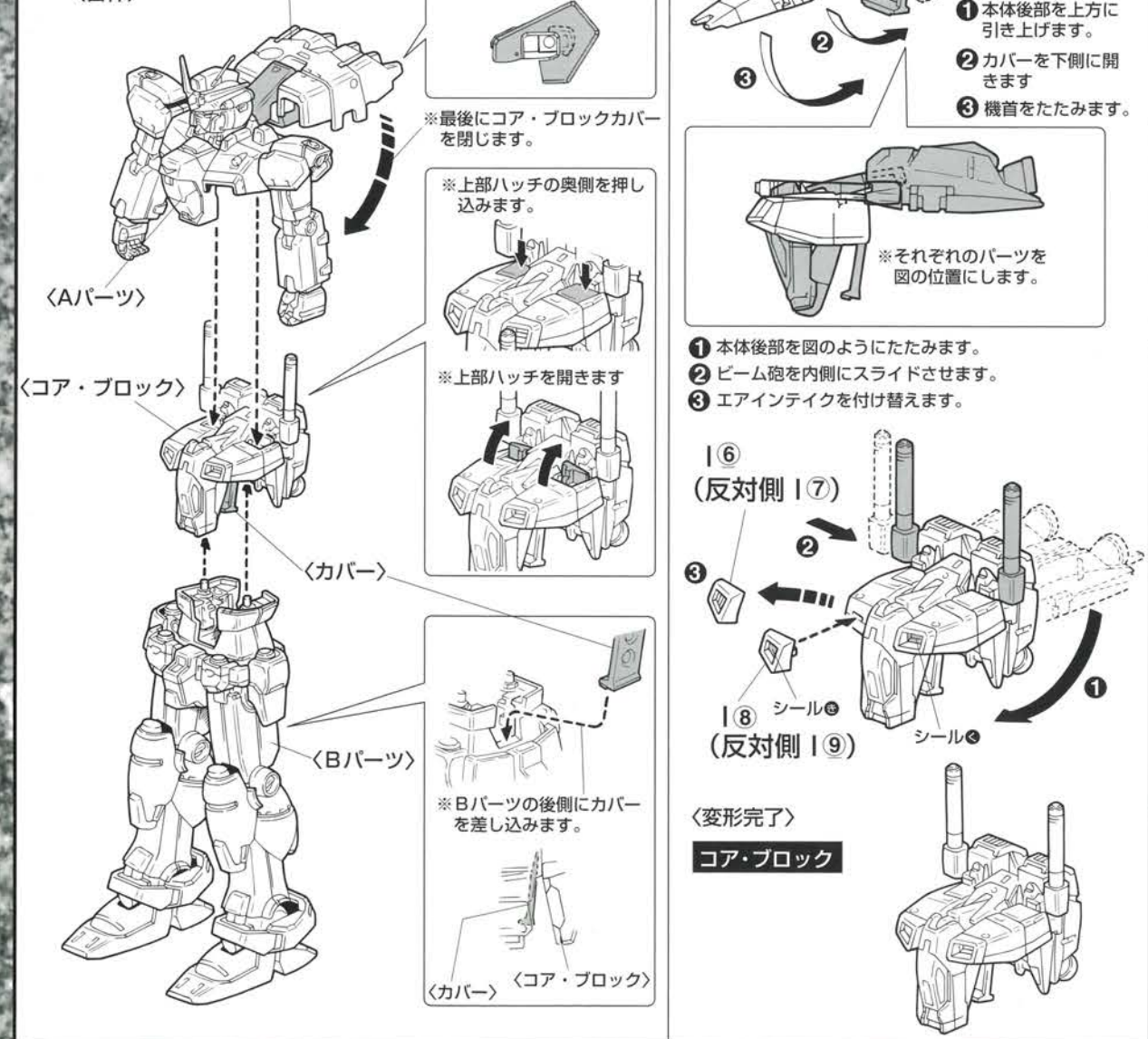
RX-78のコアブロックシステムは、機体全体をMSのボディ内部に収納していたが、その場合、稼働しているのはメインジェネレータとコクピットブロックのみであり、コアファイターに積載されていたプロペラントや兵装はデッドウェイトとなり、パーニアユニットなども無稼働状態であった。GP01は「コアブロックシステム」という構造自体を再検証することから設計が始まったと言われており、MSのコクピットと戦闘機の融合というコンセプトの刷新を目的としたのである。



13 Core Fighter Transformation
〈コアファイターの変形〉

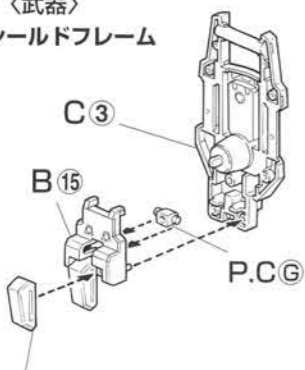


14 Combine
〈合体〉



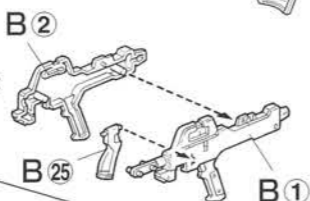
15 Weapons
(武器)

■シールドフレーム

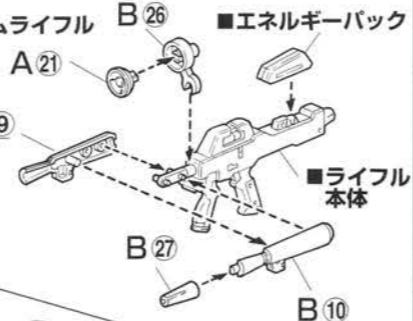


B7とB8
■エネルギーバック
※3個作ります。

■ライフル本体



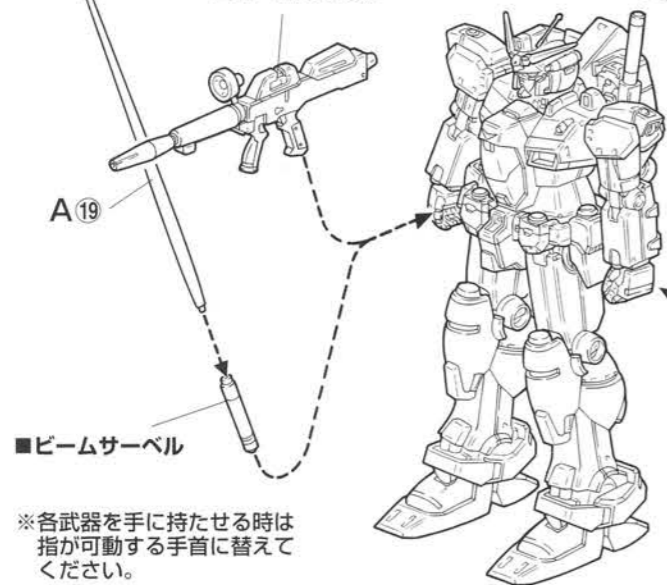
■ビームライフル



■ライフル
本体

16 Final Construction
(完成)

■ビームライフル

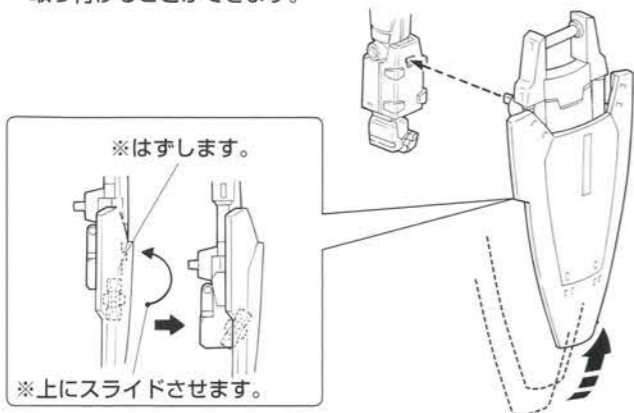


■ビームサーベル

※各武器を手に持たせる時は
指が可動する手首に替えて
ください。

■シールド
※シールドを手に持たせます。

※シールドは伸縮し、前腕に
取り付けることができます。



※はずします。

※上にスライドさせます。

・完成品をよりリアルに仕上げたい方は、
ディテールアップパーツC35、C36を
接着してください。(下の図は一例です)



・C35・C36は好みの場所に接着してください。
・B32は好みの場所に飾ってください。

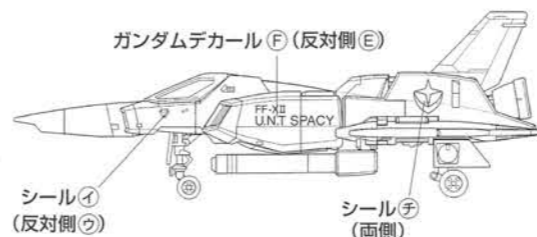
Seal
(シール)

下の図を見て、ガンダムデカールやシールの
はる位置を確認してください。

シール㉞ (調整チェック済みマーク) は、1mm
幅に切って、好きな所にはってください。



ガンダムデカール㉞ (反対側㉞)



シール㉞
(反対側㉞)

シール㉞
(両側)

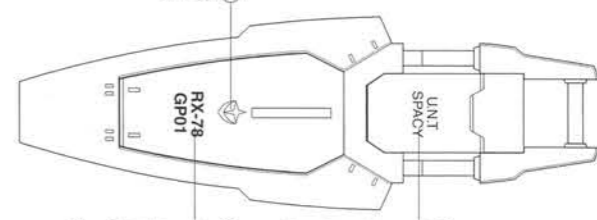
ガンダムデカールのほりかた。

1.転写するマークをだまかに切ります。

2.転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽く
こすりつけます。

3.シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度
転写していない部分をこすります。

シール㉞



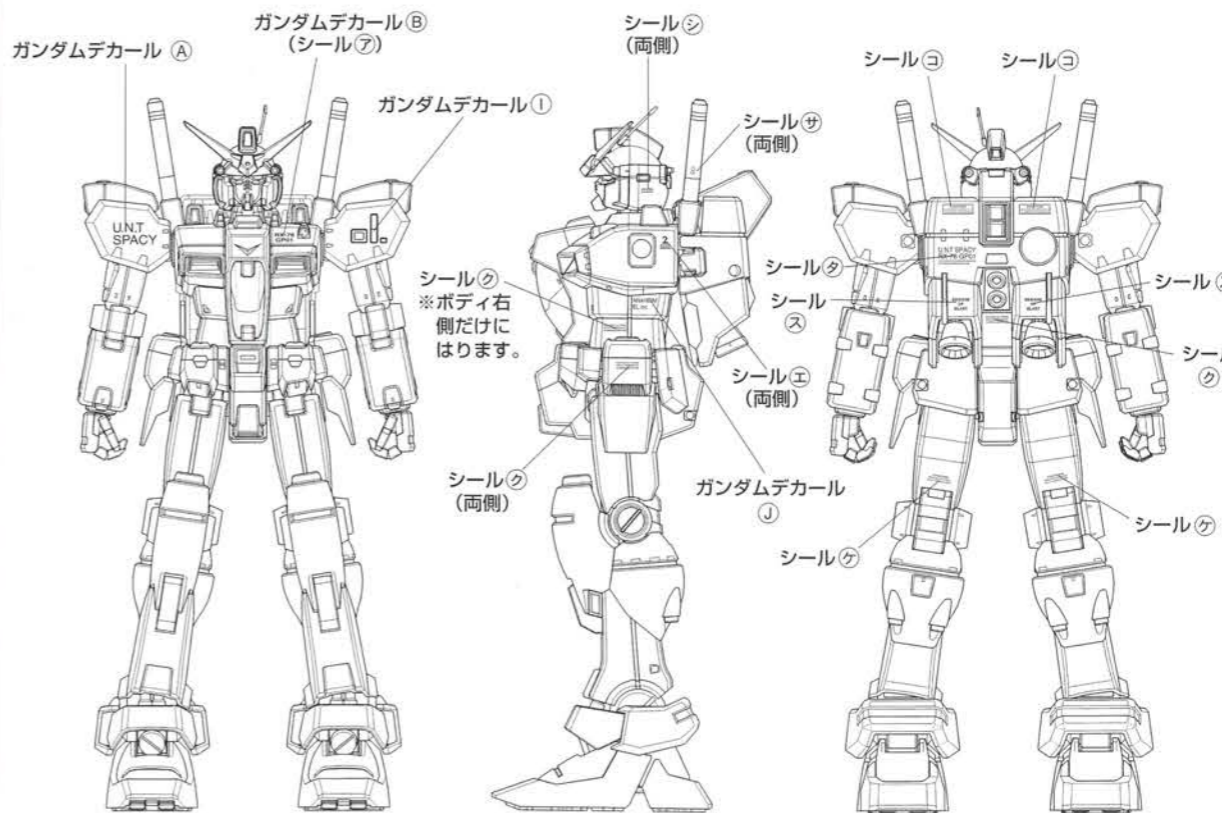
ガンダムデカール㉞

ガンダムデカール㉞

ガンダムデカール㉞



ガンダムデカール㉞



※ガンダムデカール㉞は好きな所にはってください。 ※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。